

しょうず 生水とともに生きる針江



針江生水の郷委員会 会長 美濃部 武彦

生水の郷「針江」

はりえ 針江集落は、滋賀県湖西地域で最大の安曇川（総延長約58km、流域面積約300km²）下流の扇状地の左岸に位置し、集落面積は田畑、居住区を含め約130ha、戸数170戸余り、地区の中央に針江大川が流れています。

安曇川扇状地は半径10km標高差15mの典型的な緩傾斜の地形で、大部分を比良山系を源とする安曇川の伏流水がいたるところで湧いており、地区の大部分の家（現在約110カ所あまり）では20m前後打ち込んだ鉄管により四季を通じて水量や水温（13℃前後）が変わらない軟水が滾々と湧き出ています。上水道が整備された現在もなお、この湧水を飲料水や生活用水としているお宅が数多く見られます。

私たちはこの湧水を「生水」と呼んでいます。地区のご年配の人は、「生まれ出る水」また、私たちが「生かされている水」と教えてくれました。ただ単に清らかな水が湧いている事よりも意味深げに感じてしまいます。

かぼた 川端は台所

2010年、新評論「台所を川は流れるー地下水脈の上立つ針江集落ー」（小坂育子著）が紹介しているように、上水道が完備されるまで川端は単なる水源としてではなく、水仕事に無くては成らない存在でした。田畑で採れた野菜類の土を洗い落とし、夏野



川端のある暮らし

菜など冷やす事と鮮度を保つのに壺池に浸けておきます。湧水が年間通じて13℃と一定していることから、川端の空間は夏はひんやりと冬はほんのりとしており、漬け物樽を置いておくには格好の場所です。洗い物も同様に冬は暖かく、夏は冷たい水が素手に優しい。また、冷蔵庫より適温なものも湧水のなせる技。スイカを冷蔵庫で冷やして食べている人がほとんどと思いますが、冷蔵庫の4.5℃では冷えすぎていてスイカ本来の甘みを感じる事が出来ません。甘みは冷えるほど感じなくなるもの。真夏の時期、湧水の温度でも充分冷たさを感じますが、冷えすぎていないのでスイカの糖分でも充分に甘みを堪能できるのです。もちろん他の野菜や果物でも同じです。イチゴ狩りに行って食べたイチゴ、自宅に持ち帰り冷蔵庫に冷やして食べるとガッカリした経験は無いですか？話が逸れてしまいました。スイカに戻そう。

スイカ丸ごと冷蔵庫で冷やせますか？壺池なら

楽々！利点は他にもありますが、自慢が傲慢にならないうちに切りあげましょう。

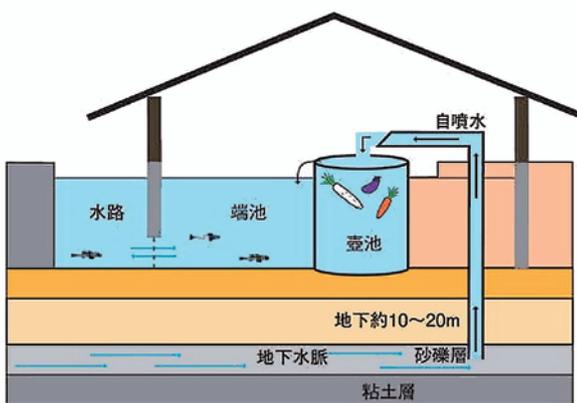


夏野菜の浮かぶ壺池

川端文化

川端には外川端（家の外）と内川端（家の中）があります。元池は生水の湧き出るところで、その生水が壺池に溜められ、下洗いした野菜や果物を浸けたり、食器を洗ったりします。壺池からあふれた水は端池に落ちます。端池には魚（主に鯉）を飼っており、ご飯粒や食べ残し、汚れた鍋を浸けておくときれいに食べてくれます。魚は観賞用ではなく、水の浄化に欠かせない役割で家族の一員なのです。こうして魚が浄化した水は水路を通り、となりの川端へと繋がっています。これを繰り返してやがて針江大川に入り、琵琶湖へと流れ込みます。

川上の人は川下の人を思い汚れた水を流さない。川上の水は思いやりといたわりの水、川下の川端は安心と信頼の水と無意識のうちにルールが出来ています。水の大切さを常々から知らされているからです。



かばたのしくみ

水を大切に思う

針江大川の水は、護岸や川底からも生水が湧き出ているため年中きれいに保たれています。梅花藻が根を張り、鯉、鮎、ハヤなどが遡上し、夏には子どもた

ちが水遊びや魚つかみに時間を忘れて興じます。5月20日前後には蛍も飛び始めます。針江大川をきれいに保ち、ひいては水害からも守るため、針江では年4回、住民総出で針江大川の藻刈り清掃を行います。また、生水の郷委員会と区の役員、有志などで、針江大川の起点から琵琶湖岸までの内湖（通称：中島）に繁殖した外来種のオオフサモやホテイアオイの除去作業を初夏に行っています。特にこのオオフサモの除去は漁船まで出しての大仕事。刈り取った藻を船に引き揚げるのは容易ではなく、この時ばかりは、水資源機構の排水機場の協力なしには出来ません。群生したオオフサモを1m四方にカットし、漁船で針江排水機場の除塵機に誘導して引き揚げます。その量は2トンダンブで約40台分にもおよぶ一大イベントです。

メンバー全員へとへとになりながらの作業にも、水資源機構の方は、いつも快くしかも笑顔で協力してください。本当に頭が下がる思いです。



住民総出の清掃活動

針江生水の郷委員会は針江の「川端」をとおして、先人が作り上げた文化を守り継承したいと願ってやみません。

針江生水の郷委員会の受賞歴他（抜粋）

- 平成16年 NHKBS/ハイビジョンスペシャル「映像誌 里山〜命めぐる水辺」放送
- 平成16年 「針江生水の郷委員会」設立
- 平成18年 「豊かな村づくり」 農林水産大臣賞受賞
- 平成20年 「平成の名水百選」に選定
- 平成21年 中学校道徳副読本に「川端のある暮らし」として掲載
- 平成22年 国の重要文化的景観「高島市針江・霜降の水辺景観」に選定
- 平成23年 「第4回淡海の川づくりフォーラム」グランプリ受賞
- 平成23年 外国向けの政府発行季刊紙「Highlighting Japan」に「水の宝物のお裾分け」として掲載
- 平成24年 第26回ハン六文化振興財団「ハン六地域振興賞」受賞
- 平成24年 環境省「環境白書」に「地域の共有財としての水資源」滋賀県高島市針江地区「かばた」の事例として掲載
- 平成25年 環境省「エコツーリズム大賞」大賞を受賞

注：本委員会の活動は多岐にわたっています。ここでは水(河川)に絞って記載しました。